



窯変焼締め瓶子 (大平新五作) 胴径 21・高さ 30cm



天平瓦残欠 (奈良時代) 径 16・厚さ 5.5cm



窯変焼締丸壺 (大平新五作) 胴径 40・高さ 40 cm



埴 權開勝り (桃山〜江戸初) 幅 27・奥行 16・高さ 12cm

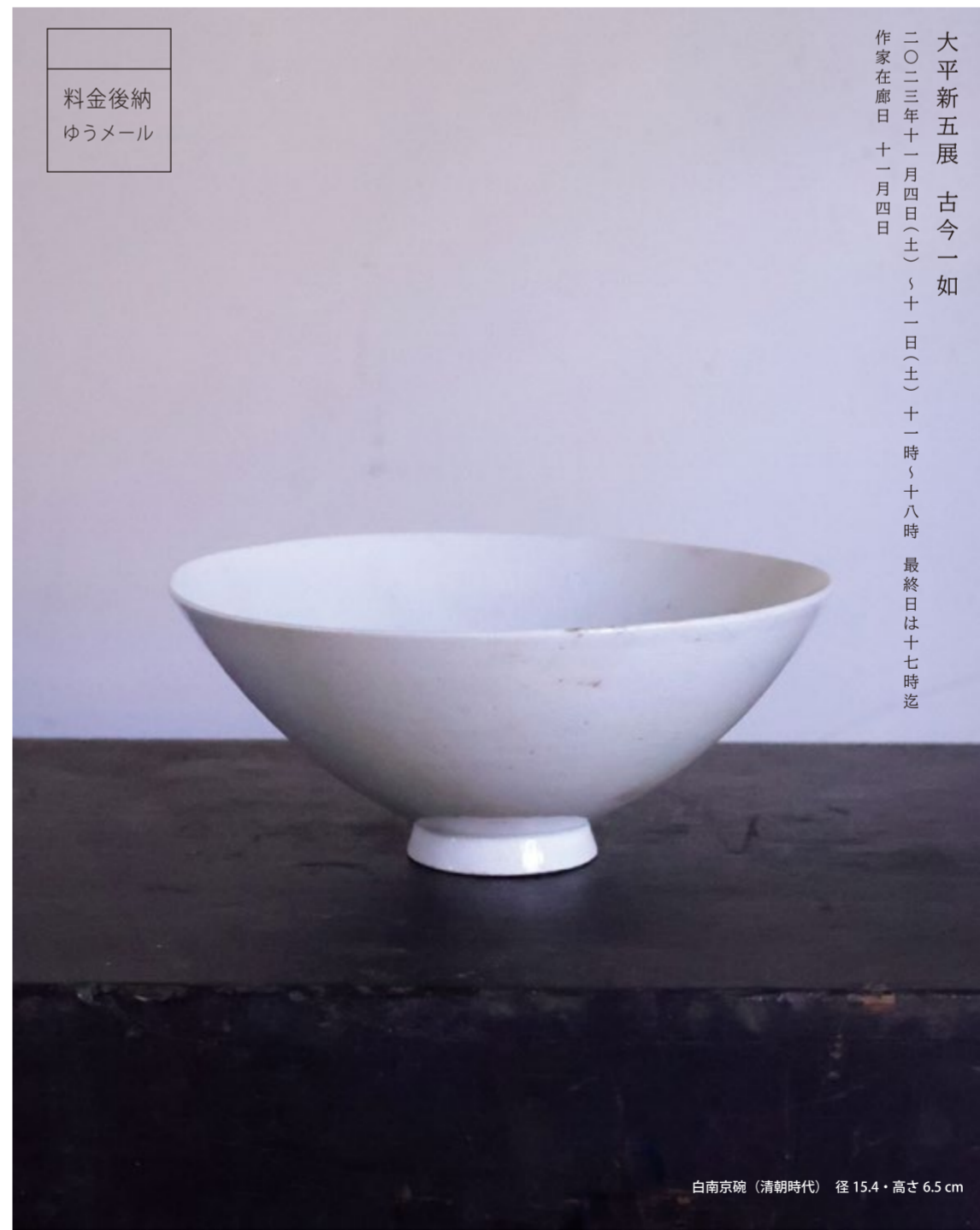
# SHINGO OHIRA ANCIENT AND MODERN



琵琶湖舟板 (明治〜大正) 長辺 88・短辺 30・厚さ 4cm



信楽焼締経筒 (大平新五作) 径 10.5・高さ 22 cm



白南京碗 (清朝時代) 径 15.4・高さ 6.5 cm



古常滑三筋壺 (平安末〜鎌倉朝) 胴径 21・高さ 27cm

大平新五さんの自作の焼き物とご自身で収集した骨董品・古道具を合わせて展示します。大平さんは滋賀県信楽町で窯業材料を扱う家で育ちました。窯業を支える立場を通して、日用陶器や置物・傘立てなど家庭・産業向きの信楽焼きから、茶の湯好みの自然釉を活かした信楽焼きまで日頃から触れてきました。20代半ばから窯業師として陶芸家の使う穴窯や登り窯を作る仕事を始めます。規範となるのは信楽の古い窯や窯跡。その作業や修理を通して焼き物のことを学ぶと共に、穴窯から出てくる古い窯道具の美しさに魅せられていきました。当初は自作よりも骨董にも傾倒し、古信楽や窯道具を手始めに、古美濃、古唐津、李朝、仏教美術、さらに古材

や鉄ものなど幅広く収集しました。さらに窯づくりの経験から学んだ薪窯の焼き物も作り始めます。こちらも基軸になるのは古信楽の壺。室町・桃山時代以降に茶人に愛された自然釉を活かした素朴な焼締です。自作にしても骨董にしても通底しているのは花び柱れの風情でしょう。それを見据える眼があるからこそ、古いものも新しいものも分け隔てのなく繋がつた物として生み出せるのです。古さも新しさも同一であり、いずれも真実の変である。弊店では二回目となる大平新五さんの個展になります。今回もまた選ばれた骨董、古材、自作の焼き物が並びます。薄身の「古今一如(ここんいちにょ)」の世界をどうぞ高覧ください。店主

料金後納  
ゆうメール

大平新五展 古今一如  
二〇二三年十一月四日(土)〜十一日(土) 十一時〜十八時 最終日は十七時迄  
作家在廊日 十一月四日

**プロフィール**  
1973年 滋賀県信楽町に生まれる  
1997年 窯業材料の仕事を行う  
2000年 穴窯・登窯作りを興け負う  
2000年 骨董蒐集を始める  
2014年 京都にて初個展  
2023年 現在、滋賀県信楽町にて活動中

**ギャラリー うつわノート**  
埼玉県川越市小仙波町1-7-6  
TEL 049-298-8715  
MAIL utsuwanote@gmail.com

電車：川越駅(東武東上線・環より徒歩25分)  
本川越駅(西武東武線)より徒歩20分  
バス：東武バス東武線(小仙波駅南口)〜(信多院前)  
駅西12番乗場(小仙波駅南口)〜(信多院前)  
車：ギャラリー専用の駐車場は3台有

大平新五展 古今一如  
2023年11月4日(土)〜11日(土)  
作家在廊日 11月4日

GALLERY  
うつわノート